

病害虫情報(第5号)8月予報

平成27年8月3日
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333
インターネット <http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450002/>

【内容】

- I 8月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例 1
【水稲、カンキツ、ナシ、ブドウ、カキ、チャ、抑制トマト、抑制キュウリ、イチゴ、ナス、ネギ、キャベツ】
- II 8月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 10

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、使用基準を遵守するとともに飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、平成27年7月22日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

I 8月の主な病害虫の発生予想、防除要否、使用する薬剤例

【水稲】

生育:6月上旬植 並～やや早、6月中旬植 並 (生産技術部:キヌヒカリ)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
いもち病(穂いもち)	並	△	(予・治) コラトップ粒剤5 [出穂30日前～5日前,2回] 3～4kg/10a (予・治) ブラシフロアブル [7日,2回] 1,000倍 等 ◆ ブラシフロアブルを飼料用米栽培に使用する場合は、欄外記載(※)の対策に留意すること。
紋枯病	並	○	(予・治) リンバー粒剤 [30日,2回] 3～4kg/10a (予・治) モンカット粒剤 [出穂30～10日前,14日,3回] 3～4kg/10a 等 ◆ 防除適期は出穂期まで。
斑点米カメムシ類	並	○	キラップ粒剤 [14日,2回] カメムシ類、ウンカ類:3kg/10a アルバリン 又は スタークル粒剤 [7日,3回] 3kg/10a 等
ヒメトビウンカ	やや少	△	◆ キラップはカメムシ類対策を主として使用する。
セジロウンカ	やや少	△	◆ 斑点米カメムシ類は、畦畔等の雑草で増殖するため、除草を徹底する。
ツマグロヨコバイ	並	△	◆ 水田への飛び込みを防ぐため、出穂10日前頃からの周辺除草は控える。
ニカメイチュウ	やや多	△	◆ アルバリン又はスタークル粒剤を飼料用米栽培に使用する場合は、欄外記載(※)の対策に留意すること。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

※ ブラシフロアブルおよびアルバリン又はスタークル粒剤を飼料用米栽培に使用する場合は、次の対策に留意すること。

- (1) 飼料用米について、出穂以降(ほ場において出穂した個体が初めて確認される時点以降をいう。以下同じ。)に農薬の散布を行う場合には、家畜へは糶摺りをして玄米で給餌すること。
- (2) 糶米のまま、もしくは糶殻を含めて家畜に給餌する場合は、出穂以降の農薬の散布は控えること。

病害虫情報

(平成27年・第5号・8月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育: やや早(農業技術センター足柄地区事務所根府川分室: 普通温州)

病害虫名	発生 予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	やや少	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 みかん:[30日,4回] 400~800倍 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 600~800倍 等 ◆ 8月下旬~9月上旬に防除する。
かいよう病 (中晩柑類)	やや少	○	コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 (予・治) カスミンボルドー 又は カッパーシン水和剤 みかん:[7日,5回] 1,000倍 みかんを除くかんきつ:[45日,5回] 1,000倍 + クレフノン [-,-] 200倍 等 ◆ 傷口から感染するため、ミカンハモグリガの防除を行い、台風通 過が予想される前には予防散布を行う。
ミカンハダニ	やや少	○	ダニエモンフロアブル [7日,1回] 4,000~6,000倍 等
ミカンサビダニ	-	○	
チャノキイロアザミウマ	やや少	△	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] チャノキイロアザミウマ:1,000~2,000倍、 ミカンハモグリガ:2,000倍 等
ミカンハモグリガ	-	△	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

病害虫情報

(平成27年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【ナシ】 生育:やや早(生産技術部果樹花き研究課:豊水)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	並	○	オーシャイン水和剤 [前日,5回] 3,000倍 等
シンクイムシ類	並	○	ロディー水和剤 [前日,2回] シンクイムシ類:1,000~1,500倍、カメムシ類:1,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 スカウトフロアブル [前日,5回]
カメムシ類	やや少	△	シンクイムシ類:2,000倍、カメムシ類:1,500倍 等 ◆ カメムシの主な餌であるヒノキからのカメムシの離脱は、早い地域では8月下旬から始まると予想される。 ◆ ヒノキの球果はやや少ないため、新世代成虫の発生量はやや少ないと予想される。ただし、山際の園では飛来の可能性があるので注意する。
ハダニ類	並	○	マイトコーネフロアブル [前日,1回] 1,000~1,500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
→単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
- ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
→単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回

【ブドウ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	並	○	(予) Zボルドー [-,-] 500~800倍 + クレフノン [-,-] 100倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
- ▶ QoI剤(フリント、アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
→単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
→SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
- ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
→単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
→QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
→単剤(レーバスフロアブル)の場合:1作1回
→CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェステイバルM水和剤等)の場合:1作2回

病害虫情報

(平成27年・第5号・8月) 神奈川県農業技術センター

【カキ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	やや少	○	(予・治) トリフミン水和剤 [前日, 3回] 2,000~3,000倍 (予・治) トップジンM水和剤 [前日, 6回] 1,000~1,500倍 (予・治) ベルクート水和剤 [14日, 3回] 1,000~1,500倍 等 ◆ ベルクートは西村早生では薬害を生じるので使用しない。
カキノヘタムシガ	—	○	アタブロンSC [14日, 3回] 4,000倍 ダントツ水溶剤 [7日, 3回] 2,000~4,000倍 等
カメムシ類	やや少	△	アクタラ顆粒水溶剤 [3日, 3回] 2,000倍 等 ◆ ナシのカメムシの項を参照。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【チャ】

生育:並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	やや少	○	(予・治) ストロビーフロアブル [10日, 3回] 2,000~3,000倍 (予) ダコニール1000 [10日, 1回] 700~1,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	少	○	アドマイヤー顆粒水和剤 [7日, 1回] チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、 チャノホソガ:5,000~10,000倍 ロディー乳剤 [7日, 1回] チャノキイロアザミウマ、チャノミドリヒメヨコバイ、 チャノホソガ、チャノコカクモンハマキ:1,000~2,000倍 チャハマキ:1,000倍 等
チャノミドリヒメ ヨコバイ	やや少	○	
チャノホソガ	やや多	○	
ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカクモ ンハマキ	やや少	○	
カンザワハダニ	少	○	ミルベノック乳剤 [7日, 1回] 1,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合:1年1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

病害虫情報

(平成27年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【抑制トマト】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除 要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
コナジラミ類 タバココナジラミ	やや多	○	【育苗期:株元施用】 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回] コナジラミ類:1~2g/株 ベストガード粒剤 [育苗期,1回] コナジラミ類:1~2g/株 プリロソソ粒剤 [育苗期後半~定植時,1回] 2g/株 【育苗期:散布】 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] コナジラミ類: 4,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 【育苗期:株元灌注】 プレバソソフロアブル5 [育苗期後半~定植当日,1回] コナジラミ類:100倍、25ml/株 【定植時:土壌施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回] コナジラミ類:1g/株 【定植後:散布】 ベストガード水溶剤 [前日,3回] コナジラミ類:1,000~2,000倍、アザミウマ類:1,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ:1,000~2,000倍 等 ❖ タバココナジラミはTYLCV(トマト黄化葉巻病)を媒介。 ❖ アザミウマ類はTSWV(黄化えそ病)を媒介。 ❖ 0.4mm目合い以下の防虫ネットを、育苗施設の開口部に展張するか、育苗ベットのトンネル掛けする。 ❖ 育苗施設内外の除草を徹底する。
アザミウマ類	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- ◎ QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成27年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【抑制キュウリ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	—	○	(予) ダコニール1000 [前日,8回] 1,000倍 (予) インプレッション水和剤 [発病前～発病初期, —] うどんこ病: 500～1,000倍
うどんこ病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [前日,3回] べと病: 600～800倍
アブラムシ類	並	○	【育苗期: 株元施用】 ベストガード粒剤 [育苗期,1回] アブラムシ類、コナジラミ類 :1g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回] アブラムシ類: 1g/株、コナジラミ類: 1～2g/株 プリロソソ粒剤 [育苗期後半～定植時,1回: 株元散布] 2g/株
コナジラミ類 タバココナジラミ オンシツ コナジラミ	—	○	【育苗期: 株元灌水】 モベントフロアブル [育苗期後半,1回] 500倍, 25～50ml/株 【定植時: 株元施用】 モスピラン粒剤 [定植時,1回] アブラムシ類: 0.5～1g/株
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	やや少	○	【育苗期～定植後: 散布】 ダントツ水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類、ミナミキイロアザミウマ : 2,000～4,000倍 アフームエクセラ顆粒水和剤 [前日,2回] ミナミキイロアザミウマ: 1,500倍
			◆ CMV等モザイク病の感染を防ぐためにはアブラムシ類、CCYV (退緑黄化病)の感染を防ぐためにはコナジラミ類、MYSV(黄化えそ病)の感染を防ぐためにはアザミウマ類の防除が重要。 ◆ 育苗施設内外、本圃内外の雑草防除を徹底する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合: 1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ファンベル、ホライズン)の場合: 1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合: 1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合: 1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合: 1作1回
 - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、ベトファイター)の場合: 1作2回

病害虫情報

(平成27年・第5号・8月) …………… 神奈川県農業技術センター

【イチゴ】

病虫害名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
炭疽病	—	○	【育苗期】 (予) タフパール [育苗期～前日, —] 2,000～4,000倍 (予) アントラコール顆粒水和剤 [仮植栽培期, 6回] 500倍 (予) セイビアーフロアブル20 [前日, 3回] 1,000倍 (予・治) サンリット水和剤 [前日, 3回] 2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 (予・治) ゲッター水和剤 [収穫開始21日前まで, 3回] 1,000倍 等 ◆ 発病した苗の治療は期待できないので、発病株とその隣接株を速やかに処分すること。防除は、10～14日間隔でローテーション散布するが、発病が見られたら4～7日間隔に短縮する。 ◆ タフパールは、有効成分が植物体に定着するために、散布後、半日程度湿度を保つ必要があるので、夕方散布するとよい。
うどんこ病	—	○	【育苗期】 (予) タフパール [発病前～発病初期, —] 2,000～4,000倍 (予) サンヨール [前日, 6回] 500～1,000倍 (治) カリグリーン [前日, —] 800～1,000倍 (予・治) サンリット水和剤 [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [育苗期(定植前), 5回] 1,000倍 等 ◆ 高温期には、白い粉状の病斑が見られず、赤紫色の壊死斑となることも多いが、病原菌は残存しているので、本圃へ発病株を持ち込まないように、壊死斑も含めて発病葉をできるかぎり除去し、防除を徹底する。 ◆ タフパールは、有効成分が植物体に定着するために、散布後、半日程度湿度を保つ必要があるので、夕方散布するとよい。
ハスモンヨトウ	やや多	○	トルネードエースDF [前日, 2回] 2,000倍 アファーム乳剤 [前日, 2回] 2,000倍 等

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし
 [使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

タフパールとの散布間隔 (メーカー技術資料より抜粋)

- ▶ セイビアー、サンリット、サンヨール、カリグリーン: 3日以上、アントラコール、ゲッター: 7日以上、ベルクート(水和剤): 10日以上、トルネード(フロアブル)、アファーム: 混用事例あり

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
 - 単剤の場合: 1作1回
 - その他の殺菌剤との混用もしくは混合剤(ファンベル)の場合: 1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤の場合: 1作1回
 - その他の殺菌剤との混用の場合: 1作2回

病害虫情報

(平成27年・第5号・8月) 神奈川県農業技術センター

【ナス】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	並	○	(予)フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍 (予・治)ベルコートフロアブル [前日,3回] 2,000倍 (予・治)ガッテン乳剤 [前日,2回] 5,000倍 等
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	やや少	○	ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 プレオフロアブル [前日,4回] ミナミキイロアザミウマ:1,000倍 ダントツ水溶剤 [前日,3回] ミナミキイロアザミウマ:2,000倍 等
ミカンキイロ アザミウマ	やや少	○	
オオタバコガ	やや多	○	ディアナSC [前日,2回] 2,500~5,000倍 プレオフロアブル [前日,4回] 1,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] 2,000倍 等
ハダニ類	並	○	スターマイトフロアブル [前日,1回] 2,000倍 モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
チャノホコリダニ	並	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
 - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
 - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
 - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオプティ、ホライズン)の場合:1作2回
 - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
 - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
 - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

病害虫情報

(平成27年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

【ネギ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒斑病	—	○	(予) ダコニール1000 [14日,3回] 1,000倍 (予・治) ペルクート水和剤[30日,3回] 2,000倍
さび病	—	○	◆ 肥料不足や窒素過多にすると発病しやすい。
ネギアザミウマ	やや少	○	スピノエース顆粒水和剤 [3日,3回] アザミウマ類:2,500~5,000倍、シロイチモジヨトウ:5,000倍
シロイチモジヨトウ	—	△	モスピラン顆粒水溶剤 [7日,3回] アザミウマ類:2,000倍

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【キャベツ】

病害虫名	発生予想 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病	—	○	(予) Zボルドー [—, —] 500倍 (予) ダコニール1000 [14日,2回] 1,000倍
ハイマダラノメイガ	—	○	◆ 育苗期から発生に注意。
ハスモンヨトウ	やや多	○	①【育苗期:苗地床灌注】 ジュリボフロアブル [は種時~育苗期後半,1回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ :1000倍(苗地床1㎡あたり2L)
オオタバコガ	やや多	○	プレバゾンフロアブル5 [育苗期後半~定植当日,1回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ:500倍 (苗地床1㎡あたり2L)
ネギアザミウマ	—	○	②【育苗期:セル成型育苗 又は ペーパーポット育苗灌注】 ジュリボフロアブル [育苗期後半~定植当日,1回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ、ネギアザミウマ:200倍 (1箱又は1冊あたり0.5L) プレバゾンフロアブル5 [育苗期後半~定植当日,1回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ:100倍 (1箱又は1冊あたり0.5L)
			③【育苗期後半又は定植時:粒剤施用】 ダントツ粒剤 ハイマダラノメイガ:[育苗期後半,1回] 0.5g/株 又は [定植時,1回] 1~2g/株 ネギアザミウマ:[育苗期後半,1回] 0.5g/株
			④【育苗期~定植後:散布】 アフアーム乳剤 [前日,3回] ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ:1,000~2,000倍 プリンスフロアブル [14日,2回] ハイマダラノメイガ、オオタバコガ、ネギアザミウマ:2,000倍

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし
[使用時期] 「収穫*日前まで」を「*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

病害虫情報

(平成27年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

Ⅱ 8月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

(1) 8月の気象予報(気象庁 地球環境・海洋部7月24日発表3か月予報)

〈天 気〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並み	高い(多い)
気 温	30%	40%	30%
降 水 量	30%	30%	40%
日照時間*	20%	30%	50%

*7月23日発表1か月予報による。

(2) 8月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	いもち病 (穂いもち)	少	並	1) 巡回調査では、葉いもちの発病は認められず、発生は平年よりやや少ない。(－) 2) いもち病常発地点において、葉いもち発病がわずかに認められたが、発生は過去の調査年と比べて少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多く、日照時間は平年より多い予報。(－)
	紋枯病	少	並	1) 巡回調査では発病は認められず、発生は平年並。(－) 2) 生育診断ほにおける生育は、草丈平年並み、分けつ数平年並～多、葉色平年並。(＋) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多く、日照時間は平年より多い予報。(±)
	斑点米カメムシ類	少	並	1) 予察灯における誘殺数は、平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	ヒメトビウンカ	少	やや少	1) 予察灯における誘殺数は、平年より少ない。(－) 2) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	セジロウンカ	少	やや少	1) 予察灯における誘殺数は、平年より少ない。(－) 2) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	トビイロウンカ	少	並	1) 予察灯における誘殺は、認められていない。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	ツマグロヨコバイ	少	並	1) 予察灯における誘殺数は、平年並。(±) 2) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

病害虫情報

(平成27年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稻	ニカメイチュウ (ニカメイガ)	少	やや多	1) 巡回調査では被害は認められず、発生は平年並。(±) 2) 予察灯における誘殺数は、平年よりやや多い。(+) 3) 予察灯と一部のフェロモントラップにおける越冬世代の誘殺数は、平年より多かった。(+) 4) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	コブノメイガ	少	並	1) 予察灯における誘殺は、認められていない。(±) 2) 巡回調査では被害が認められず、発生は平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
カンキツ	黒点病 (果実)	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉、果実での発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(＋)
	かいよう病 (果実)	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉と果実での発生が平年並(±)。 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(＋)
	チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)の粘着トラップでは、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	ミカンハダニ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
ナシ	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(＋)
	シンクイムシ類	－	並	1) フェロモントラップへの誘殺数は、県予察ほ(上吉沢)、小田原、川崎市農業技術支援センター(麻生区)では平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
ブドウ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が見られず平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」…………… (+): 多発要因 (－): 少発要因

病害虫情報

(平成27年・第5号・8月)

神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カキ	うどんこ病	—	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生が平年よりやや少ない。(—) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(+)
果樹全般	カメムシ類	少	やや少	1) ナシの巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、県予察ほ(根府川)、南足柄、伊勢原で平年より少ない(—)。 3) 予察灯への誘殺数は、県予察ほ(根府川)、県予察ほ(上吉沢)、伊勢原では平年より少なく、山北で平年よりやや少ない。(—) 4) ヒノキ球果上のカメムシ寄生数は、幼虫が平年並み(±)、成虫がやや多い(+) 5) ヒノキ球果上の吸汁痕(口針鞘)数は平年よりやや多い。(+) 6) 巡回調査地点の球果量および自然環境保全センターの花粉飛散数調査から、ヒノキの球果量は平年よりやや少ないため、新世代成虫の発生はやや少ないと予測される。(—) 7) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
チャ	炭疽病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(—) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(+)
	チャノキイロアザミウマ	少	少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年より少ない。(—) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(—) 4) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(—) 3) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より少ない。(—) 4) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より多い。(+) 5) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	ハマキムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より少ない。(—) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北では平年並(±)、県予察ほ(寸沢嵐)では平年より多い(+) 4) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	チャノホソガ	中	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 予察灯(山北)の誘殺数は、平年より少ない。(—) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北では平年より多く(+)、県予察ほ(寸沢嵐)では平年より多い(+) 4) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……………(+):多発要因 (—):少発要因

病害虫情報

(平成27年・第5号・8月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	カンザワハダニ	少	少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年より少ない。(－) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年より少ない。(－) 4) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
抑制トマト	タバココナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、露地トマトでタバココナジラミの発生は平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
抑制キュウリ	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、ナスでは発生が平年よりやや少なく(－)、露地トマトでは、発生が平年よりやや多い(＋)。 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は少ない。(－) 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、ナスでの寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
ナス	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	ミカンキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	ハダニ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	チャノホコリダニ	少	並	1) 巡回調査では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
ネギ	ネギアザミウマ	中	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
露地野菜全般	ハスモンヨトウ	－	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦および横浜は平年より多く(＋)、伊勢原は平年より少ない(－)。 2) 県予察ほでのフェロモントラップへの誘殺数は、(上吉沢)では平年並(±)、(三浦)では平年より多い(＋)。 3) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)
	オオタバコガ	－	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦および横浜は平年より少なく(－)、伊勢原は平均並(±)。 2) 県予察ほ(上吉沢)でのフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多い。(＋) 3) 巡回調査では、ナスおよび露地トマトでの発生が平年並(±)。 4) 気温は平年並、降水量は平年より多い予報。(±)

※「発生量」……… 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少
「予報の根拠」……… (＋): 多発要因 (－): 少発要因